

将来像…地域力が創る観光・交流都市 「水郷・柳川」

基本コンセプト…水郷といやしのたたずまい

	基本方針	施策の目的	施策の方向性	短期(平成 21 年度～22 年度)
柳川らしさを育成・発展する	戦略 1 柳川ブランドの構築	■目的：「水郷柳川」の価値づくり ・柳川のブランドを構築し、その価値を高めることが重要です。 ・地域ブランド=「地域に対する消費者の評価や期待」(効果) ①地域のイメージがあがる。②まちに対する消費者の評価が高まれば、地域経済の活性化。③市民モラルや郷土愛の向上、若者の地元での就職意欲の向上④居住・交流人口の増加につながる。	①水郷・柳川の実現 ②柳川ブランドづくり ③地場産品の品質保証・管理の仕組みづくり ④柳川ならではの体験メニューの開発	▶ 船頭体験 ▶ 夜の川下りの充実 ▶ ブランディング委員会の設置
	戦略 2 食の魅力づくり	■目的：柳川の食の強みを生かす ・有明海に面した本市は、海の幸に恵まれている。海苔の養殖は全国有数の産地。 ・干拓地には広大な農地が広がり、様々な農産物が生産。・旅行=食が大きな魅力。 ・食の魅力=来訪目的、観光イメージを形成する重要要素。・食の内容=柳川観光全体の満足度を大きく左右。・地元食材を使ったオリジナル料理の開発、「柳川の食」の魅力づくり。 (効果) ①地産地消=経済波及効果が高まり、域内での循環型経済の実現につながる。	①食を楽しむ空間づくり ②食の選択幅の拡大 ③地元食材を活かした加工品の開発 ④食の魅力を担う人材育成	▶ 名物料理の開発 ▶ 商品開発(スイーツ・ソフトクリーム) ▶ 地元食材(素材)のリスト化 ▶ 食関係者(組織・団体)のリスト化
	戦略 3 魅力的な地域づくり	■目的：市民・観光客双方にとって心地よい空間づくり ・「住んでよし、訪れてよしのまちづくり」の考え方にに基づき、城下町のたたずまいと掘割など地域が持つ様々な資源を最大限に活用し、市民が誇りの持てる観光まちづくりを行います。 (効果) ①観光客が訪れたい個性豊かなまち。 ②観光や交流が振興し、市民が誇りの持てる観光まちづくり。	①四季型・滞在型観光地づくり ②自然環境資源の持続的な活用 ③統一的な景観形成 ④交通インフラの充実 ⑤アメニティ(快適性)の向上	▶ くもで・タコ釣りなどの漁業体験と田植え・収穫などの農作業体験をセットにしたメニュー開発 ▶ 川下りの定期船の運航
全域・市民による観光街づくり	戦略 4 多様な集客資源の融合	■目的：柳川市全体の観光魅力を最大限に生かす ・本市には数多くの文化的歴史的資源がある。 ・資源を活かし「水郷柳川」の理想を示すことが重要。 ・市全体を一つの観光地と捉え、地域の多様な文化的・歴史的資源や自然環境等を連携し、その魅力を最大限に生かした観光振興を推進。	①広域的な観光プログラムの開発 ②市内でのスムーズな案内誘導の実現 ③潜在的な魅力の発掘と観光活用 ④地域の観光資源とイベントの連携	▶ 通り名の標示及び標識の設置 ▶ QRコードの設置 ▶ 小路めぐり
	戦略 5 地域力向上	■目的：柳川市民が担う観光まちづくり ・地域社会では、市民、NPO、ボランティアなどすべての団体が相互に連携し、地域課題を自ら解決することで地域活性化を図る。 ・地域を魅力的にするにはそこに住む人たちが自らの手で活動することが大切です。地域にはそこに根ざした、文化・生活・習慣など様々な魅力があります。 (効果) ①魅力を輝かせるために地域力を最大限に活用し、観光まちづくりを推進。	①観光を支える人材育成 ②おもてなしの精神の醸成 ③各組織間の連携仕組みづくり ④市民参加体制づくり	▶ 掘割の定期的な水質検査と市民向けの広報 ▶ 掘割掃除(クリーンアップ・キャンペーン) ▶ 柳川の歴史や文化などの情報を市報に掲載 ▶ 小学生向けの体験学習 ▶ 市民に川下り体験 ▶ 各団体との交流会の開催 ▶ 産学官連携オープンセミナーの開催
観光情報システムの構築	戦略 6 観光情報発信・受信の充実	■目的：柳川の魅力に適時・的確に発信 ・積極的な情報の発信・受信により、「水郷柳川」のイメージアップを図る広報活動を展開します。また、情報管理の一元化と観光協会の体制を強化し、本市が有する多様な魅力を効果的かつ効率的に発信することで、観光客増加につなげます。	①柳川観光のイメージアップ ②マスメディアへの積極的な情報提供 ③ターゲットに応じた多様な情報提供 ④観光客のニーズを把握するための定期的なモニタリングと情報の共有	▶ 食べ歩きマップの作成 ▶ まちかど食堂マップの作成 ▶ 有明海の旬の魚などをPR ▶ 旬の農作物のPR ▶ 収穫状況や農産物の広報活動 ▶ 観光基礎データの整備
国際交流の振興	戦略 7 国際観光の推進	■国際観光を振興 ・外国人観光客が安心して観光を楽しむことができるよう、観光施設や交通機関等の外国語表記の充実など、外国人観光客の受け入れ態勢の整備を図ります。	①外国人が一人歩きできるまちづくりの推進 ②外国人旅行者の受け入れ態勢の整備	▶ 外国人観光客向けの誘導サインの設置 ▶ 外国人旅行者向け無料電話通訳サポートサービスの導入